

審査結果報告書

2023年1月31日

主査 氏名 高平尚伸 

副査 氏名 渡邊裕之 

副査 氏名 王出道人 

副査 氏名 堀田一樹 

1. 申請者氏名 : DM20006 内田 翔太

2. 論文テーマ :

Prognostic utility of dynapenia in patients with cardiovascular disease

(心血管疾患患者におけるダイナペニアの予後的価値)

3. 論文審査結果 :

高齢者において、サルコペニア（骨格筋量低下+骨格筋力低下）は生命予後やADLの不良因子である。しかし、心血管疾患患者では体液貯留の影響から詳細な骨格筋量評価が困難である。そのため本研究では近年着目されているダイナペニア（骨格筋力低下）と生命予後、身体機能、手段的日常生活動作との関連性について心血管疾患患者を対象に検討した。

これまでの多くの先行研究では、ダイナペニアを上肢筋力や下肢筋力のどちらか一方を測定することで評価している。しかし、加齢に伴う上下肢の骨格筋力低下は異なる経過を認めるため、上肢と下肢の筋力を包括的に評価する方法が重要と考えられる。そのため、本研究では新規性としてManiniらが推奨する診断アルゴリズム（上肢筋力低下+下肢筋力低下）を使用した。

本研究の結果から、Maniniらの推奨する評価方法によって定義されたダイナペニアは生命予後のみならず身体機能、IADLと良好の関連を認めた。内田翔太氏は、Maniniらが推奨するダイナペニアの診断アルゴリズムが、臨床現場において簡便に使用可能であり、その評価は生命予後不良、身体機能やIADL低下のリスク層別化に有用であったことを明らかにした。本結果は、心血管疾患患者に対するダイナペニアの評価と予防や治療介入に関するさらなる研究の重要性を示すものと考えられる。

以上から審査員4名の意見は一致して、本申請論文が博士（医学）の学位に相応しい論文であると判断した。